

事故防止・緊急時対応マニュアル

PONO KIDS 安全管理方針



私たちは、お子様一人ひとりの「やってみたい」という気持ちや「主体性」を尊重しながら、安心・安全に過ごせる環境を提供することを最優先事項とします。

事故を未然に防ぐ「予防」と、万が一の際の「迅速かつ的確な対応（人命救助）」の両輪で、組織的な安全管理に取り組みます。

1. 基本的な考え方

安全管理の3つの柱

PONO KIDSでは、以下の3つの視点から重層的に事故防止に取り組んでいます。

1. 人 (Human) : スタッフのスキル向上、お子様の特性理解、ヒヤリハットの共有
2. 環境 (Environment) : 設備点検、整理整頓、危険物の徹底管理
3. 仕組み (System) : ITツールによる情報の即時共有、マニュアルの運用と改善

組織的な改善活動 (PDCA)

私たちは「マニュアルを作つて終わり」にはしません。

定期的に開催する「事故防止委員会（安全管理会議）」としての時間を設け、ヒヤリハットの分析や手順の見直しを行い、常に安全管理体制をアップデートしています。（令和7年度 安全計画策定基準準拠）

2. 平時の予防対策（未然に防ぐために）

事故を防ぐため、日々の活動の中で以下の対策を徹底しています。

1. お子様の特性把握と環境設定

- アセスメントの徹底
 - 利用開始時や定期面談にて、ご家庭での様子（衝動性、パニックの傾向、身体機能など）を詳細に伺い、リスクを予測します。
- 個別の安全対策
 - 衝動性が強いお子様や、転倒リスクのあるお子様については、具体的な支援手順をスタッフ間で統一します。
- 環境の安全化
 - お子様の動線上に物を置かない、ハサミ等の刃物は事務所で管理するなど、物理的な環境を整えます。



⚠ 緊急時の身体的介入（安全確保）について

道路への急な飛び出しや、他害・自傷など、お子様の生命や身体に危険が及ぶ可能性がある「緊急やむを得ない場合」に限り、安全確保のために身体の動きを一時的に制限すること（腕を掴んで引き止める等）があります。

これらはあくまで「命を守るための緊急避難的措置」であり、不必要的拘束は一切行いません。

2. 健康・アレルギー管理

- ・アレルギー対応
 - 誤食による事故を防ぐため、アレルギー情報は全スタッフへ周知します。
- ・毎日の健康観察:
 - お迎え時
 - 園や学校からの引き継ぎ時に「体調にお変わりないか」を確認します。
 - 活動中
 - 検温や顔色の確認を行い、体調変化の予兆を見逃さないよう努めます。

3. 送迎時の安全対策（置き去りゼロへ）

- ・システムの活用
 - 全送迎車（3列シート対応）に、置き去り防止支援システムを導入しています。
- ・人の目による確認
 - 降車後は、システムによる確認に加え、スタッフによる目視確認と消毒作業を行い、車内にどなたも残っていないことを「機械」と「人」のダブルチェックで確実に防ぎます。

4. 【PONO KIDSの強み】ITによる情報管理体制

外出先や災害時でも、お子様の命を守る情報をすぐに取り出せる体制を整えています。

スマートフォンによる緊急情報クラウド管理

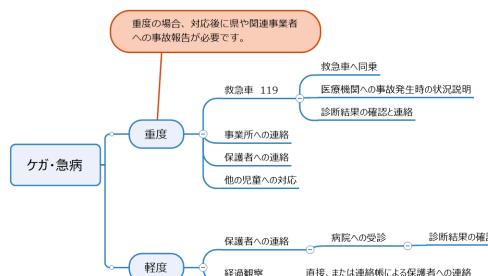
- ・全情報の集約
 - 業務専用のスマートフォン（セキュリティ管理済）にて、お子様ごとの「緊急連絡先・既往歴・服薬情報・アレルギー」を管理しています。
- ・どこでも対応
 - 施設内だけでなく、公園などの外出先や、災害時の避難途中であっても、即座に情報を確認し、救急隊や医師へ正確な情報を伝えることができます。

3. 緊急時・医療的ケアの対応基準

事故や急病が発生した際は、「人命救助」を最優先に行動します。

私たちは医療従事者ではありませんが、躊躇なく救急車を呼び、必要な応急処置を行うための明確な基準を設けています。

緊急対応時のフロー



救急車要請（119番）の判断基準



以下の症状が見られる場合は、保護者様への連絡よりもまず救急車の要請を優先します。
迷った場合も「呼ぶ」判断をします。

- ・ **意識障害**：呼びかけに反応がない、意識が朦朧としている、視線が合わない。
- ・ **呼吸困難**：呼吸が苦しそう、唇が紫色（チアノーゼ）、ヒューヒューと音がする。
- ・ **激しい痛み**：転倒後の激しい頭痛、胸やお腹の激痛を訴える。
- ・ **大量出血**：圧迫しても止まらない出血。
- ・ **痙攣（けいれん）**：初めての発作、または5分以上続く発作、通常と異なる様子の発作。
- ・ **アレルギー症状（アナフィラキシー）**：呼吸困難、全身の蕁麻疹、嘔吐、意識混濁。
- ・ **重大な受傷・急変**：高所からの転落、頭部の強打、急速な顔色の悪化など、スタッフが「生命の危険がある」と判断した場合。

SOS 緊急対応フローチャート

1. 発見・安全確保・119番通報

- ・ 直ちに活動を中断し、周囲の安全を確保（二次被害防止）。
- ・ 上記の基準に該当する場合、直ちに119番通報する。
- ・ 伝えること：「誰が・いつ・どこで・どうなったか」「意識・呼吸・脈拍の状態」

2. 応急処置（救急隊到着まで）

- ・ **AED・心肺蘇生**：呼吸・脈拍がない場合は直ちに実施します。
- ・ **気道確保・体位管理**：嘔吐物がある場合は顔を横に向けます。
- ・ **止血**：出血部位を清潔なガーゼ等で圧迫します。

3. 保護者様への連絡

- ・ 救急対応と並行して、管理者より保護者様へ電話連絡（つながらない場合はLINE／職場へ）を行います。
- ・ お伝えすること：「現在の状態」「救急車を呼んだこと」「搬送先（決まり次第）」

4. 搬送・同行

- ・ 原則としてスタッフが救急車に同乗し、医療機関へ引き継ぎを行います。
- ・ 医療機関にて保護者様と合流し、詳細を報告します。

4. 事故後の対応と情報の透明性

保護者様への報告

- ・ **包み隠さず報告**
 - いかなる小さな事故や怪我であっても、隠蔽せず速やかに保護者様へ報告します。
- ・ **事故レベルの定義**

レベル	状態	対応
レベル4	生命に関わる状態、救急搬送	即時119番 / 保護者・行政へ即時報告
レベル3	医療機関の受診が必要（骨折等）	当日中に受診 / 保護者へ連絡
レベル2	経過観察が必要（打撲等）	受診検討 / お迎え時に詳細説明

レベル	状態	対応
レベル1	軽微な怪我、ヒヤリハット	連絡帳等で報告 / スタッフ間で共有

再発防止への取り組み

- 即時共有システム

- 事故やヒヤリハットの情報は、独自の管理システム「PONO Support System (PSS)」に入力され、即座にチャットシステムを通じて全スタッフに共有されます。

- 原因分析

- 「なぜ起きたか（仕組みの不備）」を分析し、マニュアルや環境設定の見直しを行います。

5. 保護者の皆様へのお願い

お子様の安全をより確実なものにするため、以下の点にご協力をお願いいたします。

- 情報の更新

- 携帯電話番号、緊急連絡先、保険証情報に変更があった場合は、速やかに事業所までご連絡ください。

- 体調の共有

- 服薬内容の変更や、前夜の睡眠不足、朝の機嫌など、些細な変化でもお知らせください。その一言が、事故を未然に防ぐ手がかりとなります。